



今週のプログラム

- 第2623回(12/11)
- 会場 京王プラザホテル八王子

*卓話:「地域のお役に立ちます。」

公益社団法人八王子市シルバー人材センター
講師: 事務局長 廣瀬和宏氏・主事 竹内由佳氏

次回のプログラム

- 第2624回(12/25)
- 会場 京王プラザホテル八王子

*年忘れ例会

ピアノ演奏・スライド上映

2011年当時は星野リゾートの知名度は低く、東京の認知率調査で40%程度しかありませんでした。ここから5年間で90%まで上がり、今では多くの人に知られる企業になりました。星野リゾートは、とても教科書通りのマーケティング戦略を行う

私は現在、二つの肩書を持って活動させていただいております。一つは「想いから始めるマーケティング戦略コンサルタント」もう一つは、たぶん日本で私だけが名乗っているものだと思うのですが「和装のイメージコンサルタント」としても仕事をしております。経歴といたしまして2011年から星野リゾートでマーケティング、特に北海道・トマムのマーケティングをいたしました。その経験が今にとっても生かされていると感じています。



マーケティング戦略コンサルタント 上杉恵理子氏

卓話「コロナ禍でも人気の会社をマーケティングで読み解く」

2020年11月20日

本日のテーマである、コロナ下でも人気の企業の秘密をマーケティングで読み解くことのポイントは、3つあります。1つ目は商品の魅力があること、2つ目は購入までの動線が分かりやすいこと、3つ目は広報して知ってもらうことをしているかどうか、この3つです。

会社で、多くのことをここで学びました。また、着物が大好きで、24歳くらいからずっと着ている、365日ずっと着物を着られるように、着付けではなく着こなしの塾を始めようと起業して、今年5年目を迎えております。おかげさまで北海道や神戸など、全国の方に受講いただいております。今まで学んだこと、個人でやってきたことが実を結び、昨年4月にマーケティングの本を出版しました。以来、マッサージサロンやレンタルスペースやウェブショップ、それから個人の着付け師さんなど様々な方のビジネスホテルの広報としてのお手伝いもさせていただいております。私の得意とするところは、魅力づくりから露出、販売までをトータルでお手伝いできることだと思っています。

一昔前までは、経営の父と言われるドラッグ先生もおっしゃっていたように、顧客が求めるものが魅力だと言われていました。ですが今は、消費者が大変恵まれている時代であり、既存のニーズにはほとんど商品がある時代です。現在必要とされるのは、今までなかったもの、こんな欲しかったと思えるような、顧客が気づいていなかったニーズにどこまで気づけるかが勝負だと思えます。これは、自社が何を提供したいかにこだわることから生まれます。たとえば、星野リゾートの一番のフラッグシップとなる、星のや軽井沢というホテルがありますが、このコンセプトは「お客様に非日常を味わってほしい」というものです。そのために、普通の宿には必ずあるものがこの宿にはありません。それはテレビです。当初はなぜないのかとクレームをいただいたりしましたが、非日常を感じていただくため、一切置かないという決断をしました。マーケティングの分析ツールにはいろいろありますが、その中に「3C分析」というものがあります。これの中で大事なポイントは、売れ

る理由であるバリュープロポジションを取るのだと言われています。これは、自社が提供できることで、お客様が求めている、しかも競合他社がやっていないことです。顧客が何を求めているか具体的なニーズを探して対応した過去と違い、今の時代にこれを探していくためには、まず自分たちが何をしたいか何を届けたいから考えていくことで、バリュープロポジションが生まれてくると言えるのではないのでしょうか。先ほどの星のやの例から言うと、顧客に非日常を体験していただくために何ができるか考え、テレビを置かないことを選択した結果、顧客は旅先でゆったりとした非日常な時間を過ごすことができるという結果を生み出し、他社はクレームを恐れてそれを真似ることができない、というオリジナルポジションが取れていくというわけです。このように、唯一無二の魅力ある商品は、自社の思いから生まれてくるのです。

商品の魅力について

動線というのは、何かを買おうと思ったとき人は必ず、いきなり購入するということはない

購入までの動線が
分かりやすいか

わけです。顧客はまず、商品を知ると、ホームページや口コミなどでその商品や企業、そして買い方などを調べようとします。これはほとんどのサービス・商品に顧客がたどり着くまでの共通したステップです。顧客がこのステップを迷わず行えるような道筋を、売り手である企業側が用意しているかどうかで、購買の成果に大きな差が出ます。例を挙げると、サイトで無料シミュレーションを謳い、カウンセリングを経て金額を提示するという動線を作り上げているライザップ。出口戦略レポートを無料提供し、それを使う顧客にメールマガジンなどでアプローチし、コンサルティング契約まで持つていく船井総研の動線づくり。また、宿や家電など、このような無料お試しサービスが使いづらい業態の場合は、顧客が複数の検索を行なつて他社に流れていかないように、公式ホームページでベストレート保障をする、という動線が動かないように確立するというやり方が有効です。このように顧客が物を買う時の感情・ステップに沿って動線を整える、というのがマーケティングで非常に大切なポイントです。

広報を知ってもらおう

いくら素晴らしいものを作っても使わなければ無いのと同じ、というステイブ・ジョブズという言葉があります。世に伝える方法は2つあります。1つは広告です。お金を払って、新聞、テレビ、雑誌などの枠を購入して伝えていくというやり方です。もう1つが広報です。媒体が載せたいと思っている情報を企業側から提案し、それによりお金を払わずにメディアに取り上げてもらうというやり方です。

今、日経MJ、WBS、ガイアの夜明けなどビジネス系のメディアがとても充実しています。これらに取り上げてもらうことにより、本来なら莫大な広告宣伝費がかかることを、無料で掲載してもらえ、それが広報です。例を挙げると、動かない、働かないロボットであるラポットは、社長の林さんが情熱大陸で開発経緯を放映されたことで広く知られました。メディアに出る切り口にはいろいろな種類があり、今で言うと「業界ならではのコロナ対策」は注目されており、記事になりやすいです。例として、星野リゾートのリゾナーレ八ヶ岳では、ワーケーション用のゴンドラを用意しました。これは、屋外に固定してあり動かないものなのですが、中にWi-Fiとデスクとソファが置いてあり、リゾートでテレビ会議などができるものなのですが、それだけでこれが記事になっているのです。他にも

にもいろいろな切り口があり、星野リゾートでは倒産確率を發表する、ということも行いました。コロナ下で長期休業を余儀なくされましたが、社員の不安を払拭するため、社員向けのブログで代表が、星野リゾートが倒産するパターンを20個以上出しました。それが社内では話題になり、独自の取り組みが面白いとテレビでも取り上げられ、それによりホームページへの注目と、営業再開した今の集客にもつながりました。広告ではなく広報を行うことのメリットは、このように、お金をかけずに認知度を上げ、それにより売り上げが上がることです。人気を得ることで利益率を上げることも期待できます。また、社員のモチベーションも上がり、認知されることで社員の家族も安心し、求職者にもアピールでき、優秀な人材採用にもつながります。また、技術系の企業には、資金調達し開発費を集めることができるといふメリットもあります。この3つのポイントをしっかり行うことで、未来の顧客を増やす流れを作っていくことがマーケティングのキモです。

皆様の会社の商品・サービスが、世界に広がっていくことを願ひまして、私の卓話とさせていただきます。ご清聴ありがとうございます。

十二月三祝 師走 (しわす)

誕生花 カトレア
ストレチア



会員誕生祝

- 大田 吉彦 85回
- 森 明 83回
- 田辺隆一郎 80回
- 檜崎 博 76回
- 瀨上 安 66回
- 笠井 豊 57回
- 高橋 光康 52回
- 平沼 北斗 51回

会員令夫人誕生祝

- 城所 敬子様
- 山田 美代様
- 榊田和加子様
- 伊藤 彩子様
- 池田あゆみ様
- 笠井 和美様
- 立花 章子様
- 山本 淳子様
- 船江 綾子様

結婚記念祝

- 船江 栄次 30回
- 八木 知祥 26回
- 小林 秀司 6回

(順不同 会員敬称略)

例会報告

第2621回・2020.11.20(金)

◇司会

平野智彦会場監督補佐

◇開会点鐘 金子裕二会長

◇Rソング

それでごそロータリー

◇お客様のご紹介 金子会長

マーケティング戦略コンサル
タント 上杉恵理子様

◇食事と交歓 和食

◇出席報告 淵上出席委員長



出席報告
淵上出席委員長

会員111名中67名出席。
出席率66・34%。前回11月
6日の出席率71・72%を83
・84%に修正します。

◇ニコニコ発表 森財務委員



ニコニコ発表
森 明財務委員

◇会長挨拶 金子裕二会長



会長挨拶
金子裕二会長

*家でタバコを吸うときは外に
出ていまして、先日は流星群

が見られると知り、インター
ネットで時間や方角を検索し
たところ、朝方5時頃見られ
ることがわかりました。その
日の夜10時〜10時半くらい
まで外でタバコを吸いながら
空を見上げていましたが、そ
の後熱燗を飲んだら寝てしま
い、残念ながら流星群は見ら
れませんでした。翌朝5時頃
起きたのですが、結局見られ
ませんでした。

*大相撲では2横綱、2大関が
欠場です。奥さんは「面白い」
と言って、いつもよりプール通
いを早目に切り上げて、僕と
一緒に相撲を見ています。

*本日の卓話講師上杉さんは、
お母様の着物を着ることから
着物に興味を持たれたとプロ
グで拝見しました。また、宝塚
がお好きなようです。共通の
話題などとは思いつつ、ちょっ
と恥ずかしくて言えませんでした。

◇幹事報告 中村晋也幹事



幹事報告
中村晋也幹事

*12/4例会後、年次総会があ
ります。

*メールボックスにウィークリーと
12月の例会予定表が入ってい

ますのでお目通しください。

◇委嘱状贈呈
地区大会実行委員会委員

榊田義久会員

秋間勝仁会員

立花 探会員

◇委員会報告

松島社会奉仕委員長

◇スピーカー紹介

小林潔正プログラム委員

スピーカー…

マーケティング戦略コンサル
タント 上杉恵理子氏

テーマ…

「コロナ禍でも人気の会社を
マーケティングで読み解く」

◇スピーカーへの謝礼贈呈

◇閉会点鐘 金子裕二会長

◇ニコニコボックス
2020.11.20(金)

◇金子会長・上杉恵理子さん
の卓話楽しみにしています。

◇中村幹事・御陵清掃ありが
とございました。上杉恵
理子さん卓話楽しみにして
います。

◇西川・本日の卓話講師、上
杉さんの星野リゾートの
マーケティング戦略のお
話、楽しみにしています。

◇山本俊明・御陵参道の清掃
おつかれさまでした。

(順不同・会員敬称略)

小沢丸出航準備へ

次年度
第56代会長

理事会にて次年度理事・役員が決定し、12月4日(金)例会終了後の年次総会にて承認されました。小沢丸が半年後の出航に向けていよいよ準備開始です。会員の皆様のご協力をお願いいたします。



2021~2022年度 東京八王子西ロータリークラブ理事・役員

■役員

会長 小沢 孝志

直前会長 金子 裕二

副会長 関 和之

会計 石井 昭久

幹事 三村 裕介

会場監督 相川 博

■理事

副幹事 宮原 真吾

立花 探

職業奉仕委員長 山口 覚

社会奉仕委員長 池田 勝

国際奉仕委員長 平沼 北斗

新世代委員長 磯間 正裕

プログラム委員長 船江 栄次

親睦・家族委員長 蔵本 健

広報委員長 小林 孝行

卓話「新型コロナウイルスに対する取り組み」

2020年12月4日



鳥羽正浩 会員

振り返つてみますと2月に新型コロナウイルスの感染者が出るのと、3月〜4月にかけて国内の新規発症がどんどん増えていって、一日落ち着いたわけですが、それでも、7月にまた感染者が増え始めて、ピークは過ぎましたけれど高止まりで11月に入つてから恐らく第3波でまた増加している、今真つ只中というところですね。7月の下旬くらいまで、八王子での新規発生者は大体都内の発生者数と同じような傾向でした。これはなぜかと言いますと、これまでは八王子市民が都内に行つて感染しているケースが90%以上で、都内に飲みに行つてもらつてきて八王子で発症したケースがほとんどでした。7月の中旬以降は、明らかに八王子市内での感染、発症例というのが

どんどん増えている状態です。東京都の発生動向と少しずれてきて、日によるバラつきがあるのですが、どうしてこれだけバラつくかというところ、大学など大きな規模でのクラスターが発生したところが数字として高くなっています。それではこの間の入院者数はどうだったかというところ、3月〜4・5月くらいに掛けて入院者がすごく増えました。この時の八王子は、先程のグラフでも見ましたけれども、それほど発症者数は多くありませんでした。ただ都内でどんどん新規の発症者が増えて、それが入院してくると都内の病院が溢れてしまふ。今と違つてこの時期はまだ都内のコロナ受け入れのベッド数自体が今と比べると比較にならないほど少なかったというのがありますけど、都内で溢れた患者さんがだんだん西へ西へと移動してきてきました。実は3月の末頃にはもう八王子の病院もベッドが一杯になつて、もうこれ以上受けられない。八王子市内で入院が必要なコロナの患者さんが出てきたとしてももう病院では受けられないという状況でした。やはりこれはもう急ぎ

なんとかしないと八王子市自体が医療崩壊をしてしまふといった状況でしたので、八王子の病院と医師会は協議をし、病院の負担を軽減するためにはどうしたらいいか検討しました。一つは軽症者向けホテルです。入院している方で、本来入院が必要でないかもしれない軽症の方を移すための施設。それからまず検査体制が十分でなかったの、PCR外来を開設する。この2点に医師会としては注力して働いておりました。ですが実は4月の頭にこれが必要だと、保健所や病院と協議しましたが、保健所もこの時期は八王子でもほとんど感染者が出てきている状況でもう手一杯で、一緒にやつてられないというような状態ではなかなか進みませんでした。それで医師会としてどうしたかというところ、石森市長のところに石塚会長が直接直談判に行きました。もうこのままでは八王子は医療崩壊をきたすと。石森市長にはご理解いただいて、本当にご英断だと思つたのですが、石塚会長が行つたのは4月8日だと思つますが、その一週間後の4月15日には市役所の中に、新型コ

ロナウイルス対策のプロジェクトチームを作つていただきました。市長だけではなくて古川医療保険部長、この方も尽力していただきまして、それまで医師会と一緒に行政で仕事をしていたところがある方たちの中から選りすぐりの人材を集めていただきました。それが立ち上がったのが4月15日。このチームが立ち上がるのと一気に話が進んで図にあるように5月1日にはホテルを開設。連休明けの11日にはPCR外来の開設と進んで行きました。医師会としてこだわつたのはPCR外来の開設よりもまず軽症者向けホテルの開設です。というの、とにかく病院がこの時期逼迫していたので、病院の負担を少しでも軽減することが大事。先にPCR外来を作つてしまふとそこでどんどん陽性者が出るような事態になれば、病院への負担はどんどん増えてしまふということ、先に軽症者向けホテルを作つてくださいうこと。我々は、行政の人たちもそうでしょう、保健所もそうですけれども、正にゴールデンウィークは返上して、それぞれの開設のために働きました。

ではこの間、重症者はどうだったかというところ、3〜4月・4〜5月では、重症者は大体100人超えている状態でした。都の統計が4月の末からしかとつてないので、実はもう少し4月の時点の山は大きいんですけども、それに比べると第二波の時、重症者つてそれほど多くないんですよね。11月に入つていわゆる第三波になつてきて、2週間前の時は40人ちょっと、その後少し増えてマックスで70人くらい。昨日の数字で54人の重症者。ただ4月・5月に比べると重症者の数が少ないというところが見えてくると思ふます。ですのでコロナウイルスは弱くなつたのではないかという話が出てくるわけですが、実際3・4・5月というのは検査体制も十分でなかったの、実は感染者数そのものが氷山の一角を見ていた可能性があり、今よりも感染者が倍いれば、今重症者が半分になつて当然で、それから最近の重症者数の変動をみてみると、やはり高齢者の方がどれだけかかっているかによつて、重症例の数は変わってきます。よつて第二波の時には比較的若年層の割

合が高かった。

有用性がはつきりと科学的に証明されて、保険適用された治療薬は今のところありません。レムデシビルとかアビガンとか各国が開発競争して色々使われましたが、最終的にこれは有用だとされたものは今のところありません。ただ有用かもしれないという状態でそれぞれの国で ある程度薬は使われています。ただそれ以外でも、ステロイドを使う場合、免疫反応を抑制してあげることで体の中で色々なことが起きるのを防ぐ、あるいは重症化因子の一つである血栓を予防する治療によつて、ある程度重症化を防げる可能性がある。こういったことから弱毒化したという根拠は残念ながら今のところないというのが現状になります。

行政と協力して作った軽症者向けホテル・PCR外来は、ご存知のように「F、B」八王子、京王八王子の駅前のホテルです。こちらは色々な風評被害を受けました。八王子は都内の他の軽症者向けホテルと比べると非常に評判が良かった。これは行政が力を入れてくれたのですが、市内のレストランにお願いして予算内に弁当を作っていたら、三食そこから供給します。都内だとほとんどお弁当を作っている会社に全部委託ですよ。それをせずに市内のレストランに協力して作っていたら、近隣の施設から色々なものを差し入れてもらいました。新聞販売店から売れ残った新聞、コンビニからは賞味期限切れ間近の食材とか。おやつなどどうしたものを入れていたという評判よかったです。ですが、コンビニのゴミがホテルから出たことによつて、コンビニにはどうやら行けるらしいとか。ちょうどオープンした後は八王子での新規感染者が増えてきましたので、こういう人たちが、軽症者が夜の街に繰り出して飲んでるんじゃないか。そこで感染を広げているのではないかといったあるいは風評被害を受けました。9月一杯まで5ヶ月間延べ1046名の入所者を受けました。うち市民が91名です。PCR外来の方に関しては10月までの6ヶ月間でトータル1031例。うち陽性者が61名です。開いた当初は感染者がどんどん減つて、ちょっと肩透かしを食らったような感じだったのですが、7月に入つて再流行を迎え本当にPCR外来は役に立ちました。実際、市内・都内で感染者が増えているような時期に陽性率が高くなっている傾向があります。

これは南多摩病院の院長の益子先生がまとめてくださったのですが、例えば7月、八王子のPCR検査数はそれほど多くやつてなかったのですが、感染者数はそれほど多くなくて、八王子ではそれなりに感染を防げているデータを出していただきました。

我々は4月から6月にかけてPCR外来の開設とその持続的な運用に関して働いてきました。それがひと段落して7月にまた再上昇を始め、医師会としてどんなことを考えていたかという、その後の感染者数などが推移するのかが分かります。今までのスペイン風邪とか新興感染症経験からすると第二波で終わるわけではない。少なくとも第三波はあるだろうし、7月に上がってきた第二波はその先どうなるかもよくわからないということ。そして、何を危惧していたかという、冬はどうなるか、ですね。この12・1・2月というのは元々インフルエンザが流行する時期で、多数の発熱者が発生するわけです。その中に一定数コロナが入ってくるようになる。これこそ医療機関で感染者が出てしまう医療崩壊を出してしまう。こうした懸念があるわけです。なぜならインフルエンザ

とコロナは症状からほとんど見分けがつかないのです。先行する家族内感染。例えば家族の誰かが数日前にインフルエンザとはつきり診断されていると、その後同じように熱が出て来ればインフルエンザと分かりますけれども、それ以外、コロナは味覚嗅覚障害。コロナの場合、この障害というのとは本当に0（ゼロ）になる。鼻が詰まるとかそうとう感じにくいとかそういうレベルではなく、ほぼ0。ご飯を食べるとかゴムを食べているように感じるという話もあるくらい0になる。そうであれば、こういった本

当に典型的な症状を呈して、一部は一部の症例を除くと見分けがつかないのです。こういった人たちが、診療所とか病院に沢山行つてしまうと、そこで感染防止はできなくなるという懸念があるわけです。

7・8・9月頃医師会がどうしたらいいかということを検討していた時期というのは、国はほとんど地方に丸投げでした。地域の実情に合わせてそれぞれで体制を組みなさいというふうな話の流れでした。仕方がないという。だから八王子でなんとかしなければならぬという話になつていったわけです。そうした国がようやく10月に入つて、このイ

ンフルエンザ流行期、今年の冬のシーズンの外来診療体制の基本的な方針を出しました。それはかかりつけ患者さんは発熱であつても、原則かかりつけ医が一次診療をするということ。これ一見、当たり前のことに感じるかもしれませんが、私もそうですが、八王子市内の診療所で、発熱者を見ていなかったかというところ。それはありません。多くの先生は発熱者であつても従来通り診察していました。なぜそれまでは上手いかなかつたかというところ。自分のところが発熱者を診ますと公に手をあげてしまうと、自分のところに発熱者が殺到するのではないかと、周りの医療機関はコロナにかかりたくないから発熱者を敬遠して、どんどんうちに誘導されてしまうのではないかと。この懸念があつたので、なかなか公に手をあげられなかったのです。

そこで登録された情報は受診相談センターであったり、「ひまわり」という東京都の医療機関を紹介するシステムに共有して、かかりつけのないかたも安心して全員近隣の適切な医療機関を紹介していただいて受診できる体制を整えるために、このような形になりました。

発熱者を一次診療する、かかりつけ医としての診療検査・医療機関ですが、実は八王子市では登録から最初の1週間で100を超える医療機関が登録されました。これは非常に割合が高く市内で内科小児科が合わせて120くらいですので、手をあげてくれた中には耳鼻科の先生等も入っているのですが、100というのは非常に多く、都内の他の自治体と比べても、人口あたりで考えても医療機関数で見ても非常に、極めて割合は高いです。それだけ八王子市の診療所、医療機関の先生方は意識が高く、発熱もみんな診ていこうと考えていたのだという証だと思っています。

通常、休日診療所を中心に、八王子は体制を組んでいるのですが、それまでは診療所ではなかなかできないという意見が多かったのですが、この基本体制ができたことで、これまで通り休

日診療を自分のところでもやりますよといっていた医療機関は内科小児科だけで96医療機関。これだけの数があればこれまで通り診療所を中心とする休日診療体制が組めるものと医師会としては判断しまして、今徐々に体制を構築しているところと。医療機関に検査の可否は問われていません。というのは検査による瓶等拭いをする、医療従事者が感染してしまふというリスクも伴うからです。各医療機関に検査を絶対しなさいなどとは言われてないので

上、かかりつけ医に受診していただきます。必要な方にはインフルエンザなりコロナの検査をする。必要と思われる症例に関しては出来る医療機関を紹介するかPCR外来を紹介していただいて、そちらで検査を受けられるということになります。

調査では、インフルエンザでは71%、コロナに関しても40%の医療機関が自分のところで検査できるようにするとの回答をいただいております。皆さんが医療機関にかかる時、この冬場かかる時どうしたらいいかということの目安になります。かかりつけのない方は受診相談センターに電話相談していただいて、そこで必要性があると判断したら近隣の医療機関を紹介していただければ、基本的にかかりつけに電話で相談をしていただく。まず電話をしてください。電話での判断で、受診が必要か否か。必要ということであればマスク着用の

「コロナって怖いのですか」と聞かれます。インフルエンザも例年3000人から5000人亡くなっています。多い年には1万人日本だけで亡くなっていると言われています。スライドを作った2週間前1900人で、今2200人を超えておりますが、もうすぐ1年経ちますが、その位の死者数ですよ。そろそろ個人的には扱いを変えるべきじゃないかと思うのですが、皆さんが感染予防のための色々な対策を採っていただいているのでこの位で済んでいるということはあるのですが、インフルエンザはこの位ですし、例えば10月1ヶ月の自殺の死者数だけで2500人を超えているというわけです。

ルエンザは発症して、熱が出てから2・3日後に一番ウイルスを撒き散らします。それに対してコロナは発症一日前が一番多く撒き散らしているのです。これが厄介で概ね発症の2日前から10日後までウイルスが出ているのですけれども、発症一日前がもっとも感染させやすい。懸命な皆さんなら当然お分かりと思えますけれども、要するに熱が出てから外出を控えても遅いということ。熱が出る前から、普段から不特定多数と密になるような場所は避けていただくのは当然ですが、万一そんなところに入った方や、そういうような場合に出くわしてしまった方は2週間の潜伏期間を考えて、2週間程度、外出を控えていただく。これが本来は必要になります。自分を守るためだけではなく、周囲も守るために日常からしっかりと頑張っていた方がいいと思います。

予防に大切なこと

感染経路は田中先生のお話にもあったと思いますが、皆さんが気にしなくてはいけなのは飛沫感染と接触感染です。いずれにしても粘膜面、目鼻口からウイルスが侵入して感染します。ですからマスクが必要です。ほと

んどの方は、マスクは自分が伝染しない、周りからウイルスをもらわないためにしていると思えますが、そこは科学的には証明されていません。ただ感染者が周りにうつすのはマスクをしていればある程度防げるということは科学的に証明されていて、要するにうつらないためではなくうつさないためにしていると思ってください。ですからお互いにマスクをすることが大事になるわけです。接触感染についてはウイルスが手についても感染はしませんから、その手を鼻口に持つていかなければ大丈夫です。その前に必ず手を消毒するとか、不特定多数の人が触れたところに触った場合には必ず消毒をしていただくということ。ただ外出せずにずっと家の中にいるのに、何十回も消毒する人がいますがあれは無駄です。手が荒れるだけだと思えます。とにかく外に出て色々な人が触つたものに触れた場合は帰ったら必ず手を洗うことが大事になります。加えて当然ですが日頃の体調管理も重要です。よく聞かれる事に濃厚接触者はどのように決めるのかということがあるので、保健所の統一されたルールがあります。それは換気の悪い場所で一定時間、概ね15分以

上と定めておりますが、感染者と特に三密の状態で接触した場合に濃厚接触者に当たりません。その場合でもお互いにマスクをしていけば濃厚接触にはあたりません。よく聞かれるのは「なぜ15分なのか」と聞かれるのですが、1分でも一緒にいれればもうリスクがあるのでは、と聞かれるのですが、ウイルスが1個人入っても発症・感染しません。ですからある程度感染が成立してしまいかもしれない、ウイルスが入るかも知れない時間として15分としています。実際保健所は15分で切っていて、濃厚接触者を出して例えば大きな施設だと50〜60人検査するのですが、ほとんどの場合一例も出ません。だから15分一緒にいてもほとんどの場合大丈夫です。あともう一点、濃厚接触者の濃厚接触者が自分の身近にいるから、という相談を受けるのですが、これは赤の他人です。その次の濃厚接触者はどうするのですか、その次はどうするのですかとという話になりますが、大体友達6人つなぐと日本国民全員と繋がると言われていますからこれを問いかける必要もないです。とにかく感染者とその周りの濃厚接触者だけ気をつければ大丈夫です。

PCR検査についてですが、これはあくまで検査した時点で陰性だということであって、その後必ず人生が持続しているからこの一時点だけの陰性確認には意味がありません。そしてPCR検査はウイルス構造の一部だけを見ているだけですから、残骸をみている可能性があつて、そのウイルスが生きているかどうかは分かりません。現在の制度の問題は最初から言われていますけれども、7・8割は捉えることができませんが、2・3割は逆に陰性と出ます。陽性の方であっても、ですからその陰性だった人たちが平気で外に出たらどうなるか分かりますよね。そういう意味で無症状の人とか不安だからという理由で誰でもいい検査ではありません。にもかかわらず悪徳な検査機関、今コマーシャルを打つくらいお金儲けしていますよね。あるお店では、こういったところで従業員全員検査して、陽性者は休ませて、陰性者は全員そのまま働いている。本来は一緒に働いている時点で濃厚接触に当たるケースが多いはずだけど、働いています。そもそも偽陰性がありますので、そのかたが陰性なのか。またこうした都内の検査期間というのが郵送で検体を送って検査を

する。例えば絶対感染リスクの低い子供の唾液を採って送っても、それをチェックしようがないですよ。だから自分が陽性になりたくなければそういったことも出来てしまう。そういった状態です。こういった検査会社は医療機関ではないので保健所に届出は出しません。店側も休業要請を受けるかもしれないので報告しません。本当の濃厚接触者も追跡ができないということになって、最終的に感染拡大に歯止めがかからない。

差別の問題も最近あまり言われなくなりましたが、解熱後3日、あるいは発症から10日経つていけば保健所のルールに従えば、その後は感染の危険はありません。ですからそれ以降にPCR検査で陰性確認を求めると意味がありません。ウイルスの屍骸を拾ってなかなか陰性にならない方がたくさんいます。じゃあその人に本当に感染力があるのかという、ないわけですよ。こういった要求をするということはその人の知識がないということを示しているのと同じなので、こういった差別はやめてください。

あるいはクラスターが発生したというのではありません。診療所の外来レベルで医療従事者がかかる、待合室で患者同士が感染拡大した、そうした事例もありません。病院で発生してしまいうケースがあります。それは患者さんがコロナだと思っていなかった。例えば発熱もなく、交通事故で骨折して救急車で運ばれてきた人が、後で検査したらコロナだったとか。あるいはぜんぜん別経路、看護師さんが都内に合コンに行っちゃったとか、まあそういうケースです。で今ほとんどの病院は職員の飲み会を禁じています。特に大病院と心掛けている病院クラスではほとんど寂しい限りです。私の立場上も限られた場合でしか出ていけないのですが、逆にこういうところはしかそれが出ないということはいさえ返せばきちんとした対応さえとつていけば感染はしないということなんです。ですので、誰もがコロナだと思つて適切に対処して乗り切つていただきたいと思つます。

会議や協議会など必要な場合もありますが、どうしたらいいかと聞かれます。完全防護策を十分にとつていけば感染を防ぐことができます。ただご自身

が100%それを守ったとしても誰もが知っているとは限りませんし、そういった中で人が集まる以上は、リスクは0にはなりません。一方で社会経済活動を継続するために必要なものもあるわけですが、やはり必要性とリスクを十分天秤にかけることが必要だと思います。例えば集まる人数が多くなればなるほどちゃんと守らない人が入ってくる訳ですし、集める環境が三密になれば広がる可能性は高くなりますし、高齢者とか基礎疾患が多い方が増えれば増えるほどリスクが高まります。ですから私は今月の夜間例会は中止にしたいのだと思います。ただ、そういった会に参加してくれと要請された個人としては、こういうことをご理解いただいた上で、この場に出ていって感染してしまつたらしょうがないとご自身で納得できるものだけ参加していただくのが正しいかなと考えております。

最後になりますが、みなさんがかかることなく、元気にまた良い年を迎えていただけたらと思います。今日はお話をさせていただきました。ご静聴ありがとうございました。

例会報告

第202022回・2020・12・4(金)

◇司会

秋間勝仁会場監督補佐

◇開会点鐘

金子裕二会長

◇君が代斉唱

Rソング 奉仕の理想

◇食事と交歓

100万ドルの食事

◇出席報告

山田和夫出席委員



出席報告
山田出席委員

会員111名中74名出席。

出席率72・55%。前々回11月13日の出席率61・08%を77・45%に修正します。

◇ニコニコ発表

久保英生財務副委員長



ニコニコ発表
久保財務副委員長

◇会長挨拶

金子裕二会長



会長挨拶
金子裕二会長

*寒い日が続いています。石油ストーブを出すか出さないか、電気ストーブにするかなど悩

みどころです。

*今日は映画のE.Tの日です。日本ではものけ姫に抜かれるまで配給収入1位だったようです。このところの鬼滅の刃の勢いが凄いのでまた抜かれるかと思えます。

*また、今日はみたらし団子の日でもあります。砂糖醤油の葛餡をかけた申団子のこと。をいい、京都発祥ということ。です。



幹事報告
中村晋也幹事

◇幹事報告

中村晋也幹事

*本日例会後年次総会を開催するのでお残りください。

*地区より、来年2月に予定されていたバギオ訪問の旅は中止と連絡がありました。

*メールボックスに、ガバナー月信の会員数のページと、ロータリーの友をお入れしました。

◇ポールハリスフェロー寄付感謝状贈呈

小沢孝志会員

三村裕介会員

◇委嘱状贈呈

地区大会実行委員会委員 立花 探会員

◇委員会報告

小杉親睦・家族委員長

◇三祝

◆会員誕生祝(敬称略)

檜崎博・森明・田辺隆一郎・高橋光康・平沼北斗・笠井豊・大田吉彦・洲上安

◆会員令夫人誕生祝
城所敬子様・山田美代様・榊田和加子様・伊藤彩子様・池田あゆみ様・笠井和美様・立花章子様・山本淳子様・船江綾子様

◆結婚記念祝(敬称略)
船江栄次・八木知祥・小林秀司

◆スピーカー紹介
赤上 晃会員
スピーカー・鳥羽正浩会員

◆閉会点鐘 金子裕二会長
◆年次総会
(収支中間報告・次年度理事役員承認について)
満場一致で承認



●2020・12・4(金)

◆金子会長・鳥羽先生の卓話
楽しみにしています。例会後、年次総会です。宜しくお願ひします。

◆中村幹事・年次総会よろしくお願ひします。鳥羽正浩会員、卓話楽しみにしています。

◆榎崎・お誕生日お祝いを頂きます。本日、スーパール

プス西八王子店の地鎮祭を執りおこないましたので。開店は来年10月の予定です。

◆大石創元・ごぶさたしております。

◆田辺・誕生祝いをいただきます。

◆石井・鳥羽会員の「コロナへの取組」しっかりお聞きしたいと思います。

◆三浦・鳥羽講師の卓話、楽しみにしています。

◆森・誕生祝ありがとうございます。

◆大石和春・結婚記念日のお祝ありがとうございます。

◆赤上・鳥羽正浩会員の卓話楽しみにしています。

◆大田・結婚祝有難う御座いました。また、今月は誕生祝いをいただきます。

◆山口・鳥羽先生の卓話を楽しみにしています。

◆小沢・2021-22年度理事・役員が決まりました。よろしくお願ひします。

◆高橋・誕生祝いをいただきます。

(順不同・会員敬称略)

東京八王子西ロータリークラブ

〒192-0083 東京都八王子市旭町14番1号 京王プラザホテル八王子 8F

TEL.042-649-3751 FAX.042-649-3753

http://www.hachioji-west-rc.org

会長 金子裕二 幹事 中村晋也 広報委員会 原巖 浅川立憲 小林孝行 山本正光 相川博 末木博 伊藤則久 町田修一



皆様の投稿をお待ちしております。お気軽にお寄せください。

アイデアを上げよう : www.rotary.org